

年頭所感

新年明けましておめでたございます。

皆様方にば、新年のご挨拶 西暦一〇〇〇年をお健やかにお迎えになつたこと存じます。二十一世紀への助走ともなれば今年が皆様にとってまことに素晴らしい年となります。よへ心からお祈り申し上げます。

沖縄の新春は天候に恵まれ、暖かな日々となりましたが、この明るさがこれからも続くことを強く期待するのも、そのために私ども沖縄総合事務局としても精一杯の努力を行つてまいりたいとお誓ひました。

一〇〇〇年せ、昨年末のつわゆるY2K(ヤハーテー)問題に対応するための危機管理態勢の下で幕が開き、沖縄総合事務局においても、私以下多くの職員が年末始を返上して待機いたしました。幸いにも県内はもとより全国的に世界的に大きなトラブルは発生せず、社会のシステムは正常に稼働しておりますが、このY2K問題ははしながら、Y2K問題ははしなくも、ハイパーテクノロジーが現代社会において単に國のみのベールではなく地球規模の広がりをもつてほとどん全ての社会システムに関するところをよく解りせられました。

そのためになすべきことは多々あります。しかしでは、沖縄総合事務局としても取り組まねばならない今年の三つの課題について触れていくことになります。

一つは、言つまでもなく七日に開催されたY2Kの首脳会議(ナショナル)です。ナショナル自体は数日間の会合に過ぎませぬが、この会議の注目度、重要度は幾多の国際会議中トップのものであり、開催地の知名度も飛躍的に向上するところ、Y2Kとは歴史が証明しております。

我が国有数のリゾート・リバーンシヨン地域としての沖縄を全世界に発信する場として沖縄を世界に紹介しこものはなこでござります。しかし、Y2Kとは逆に沖縄にとって不利な情報が発信されたときの影響は甚大なものになるところ、Y2Kでもあります。心を引き締めて、万全の態勢で臨む必要があります。

皆様方の変わらぬ御支援をお願い申します。



沖縄総合事務局長
小山 裕



これに限りず、今日の社会は国家の枠を越え、地球全体の中で複雑に絡み合って動いています。しかし、そのような中でも、私たちが日々生活している地域社会は現に存在しているわけですし、そこをいかに住みよへ活力あるものにしていくかといつゝとは、グローバル化が叫ばれる時代にあっても常に考えていかなければならぬ大きな課題です。

私達が住む沖縄は世界からみればちっぽけな存在かも知れませんが、Y2Kを素晴らしい地域とするところによつて、世界中の沖縄の展望が開かれるものと信じます。

そのためになすべきことは多々あります。しかしでは、沖縄総合事務局としても取り組まねばならない今年の三つの課題について触れていくことになります。

一つは、言つまでもなく七日に開催されたY2Kの首脳会議(ナショナル)です。ナショナル自体は数日間の会合に過ぎませぬが、この会議の注目度、重要度は幾多の国際会議中トップのものであり、開催地の知名度も飛躍的に向上するところ、Y2Kとは歴史が証明しております。

さて、現行の第三次沖縄振興開発計画(三次振計)は、平成十三年度で計画期間が終了しますが、その後の振興開発の在り方をどう考えるかの前提として三次振計の成果をどう扱えるか、どうした検討も進めなければなりません。そのための作業が沖縄開発庁を中心とした沖縄県、それに沖縄総合事務局でも行われています。この結果を踏まえて、二十一世紀の沖縄振興のマスタープランが作られていくことになります。

一〇〇〇年の課題は以上申し上げたものに限らず、私達沖縄総合事務局は、沖縄開発庁の出先機関としての最後の年(来年1月からは内閣府の機関となります)に当たり、局の総力を挙げて任務を果たしてまいります。

皆様方の変わらぬ御支援をお願い申します。

次に、昨年来示されてる政府の沖縄振興策についてです。六月に出された「沖縄経済振興」(十一世紀プラン)中間報告及び年末に決定された北部振興策は、これから沖縄の経済、社会の進むべき方向性を示したものであり、これらの着実な実施により、かねてから言われてきた沖縄経済の自立やバランスのとれた地域発展が進むものと考えてます。

沖縄振興策についてです。六月に出された「沖縄経済振興」(十一世紀プラン)中間報告及び年末に決定された北部振興策は、これから沖縄の経済、社会の進むべき方向性を示したものであり、これらの着実な実施により、かねてから言われてきた沖縄経済の自立やバランスのとれた地域発展が進むものと考えてます。